



# 認定看護師だより

認定看護師会



## ● 徘徊・無断外出への対応

認知症看護認定看護師 笹 薫

徘徊の明確な定義はありませんが、「どこをなく歩き回ること」とされており、認知症の行動・心理症状（BPSD）の中でも出現頻度の高い症状です。

### ポイント：徘徊には意味がある

徘徊は無駄に歩いているようにみえますが実は、目的や理由があります。そのため「徘徊」ではなく、「探検」「探索」と考えましょう。

「探検」を開始する時期や状況を観察したり、本人に「どこへいくの？」「何かお探ですか？」「ここはどこですか？」など質問したり、一緒に歩いて、歩いている理由や本人が感じている世界を理解し、対応を考えましょう。

### ✦ 望ましい対応

徘徊や帰宅願望を根本的に解決するためには、今いる場所が快適で心地よい、ここが自分の居場所だと思ってもらえるように環境を整えることが必要です。

また、好きなことや仕事、役割があることなども有効です。なぜ自宅へ帰りたいのでしょうか？

➡ 家は「あたたかい家族がいて、心休まる自分の居場所」なのではないでしょうか。

### ✦ 望ましくない対応

徘徊しないように監視したり、行動を制限することは望ましくありません。

不安が強まり、徘徊がひどくなる場合があります。

※ 徘徊はある日突然起こります。安全に防ぐことは難しいので、普段から安全に徘徊できるように対策をたてましょう。

例) 入院中の場合

- ・服装は明るめの色（他の患者と変化をつける）にする。
- ・離床センサーの起動。
- ・他部署と情報共有を行い、見かけた場合は話しかけたり、病棟へ連絡をもらうようお願いする。

安心できる環境  
づくりが大切です  
皆で協力し  
頑張りましょう♪

安全に徘徊できるようにする



## 血液・体液曝露対策・ご自身の抗体価をご存知ですか？

感染管理認定看護師 上土井 麻紀

### 【感染経路】

- ・経皮的曝露：針などの鋭利器材による曝露
- ・経粘膜的曝露：眼や口腔粘膜への飛散による曝露
- ・その他：傷のある皮膚への曝露

### 【感染リスクの高い曝露状況】

- ・経皮的曝露>経粘膜的曝露
- ・中空針（内腔のある針）>非中空針
- ・動脈や静脈に留置された針>皮下注、筋注

### 【予防】

- ・安全装置付き器材の使用。  
（安全機材を確実に使用、安全装置への過信は危険です！）
- ・針廃棄ボックスの使用。（リキャップ禁止、作業環境を整える）
- ・手袋の着用。（針刺し発生時の血液曝露量を最大、50%減少出来る）
- ・体液曝露の可能性がある場合はマスク、エプロン、ゴーグルを着用しましょう。

	感染確率	職業上曝露の危険性と予防策
HBV	6~30%	最も感染力が強い、1週間は環境でも生存可能。ワクチン接種によって予防可能。
HCV	1.8%	経皮的曝露による感染がほとんど、ワクチン・曝露後予防投薬がない。
HIV	0.3%	感染源がAIDS末期の場合は感染の危険性が増加する。ワクチンはないが、曝露後予防投薬がある。

B型肝炎ウイルスへの感染や肝炎等の発症を予防する為には、ワクチン接種が有効です。自身の抗体価を把握し、基準値を満たしていない場合はワクチン接種をお勧めします。

